

赤ちゃん絵本とことば

後路 好章

《はじめに》

わたしに与えられたテーマは「赤ちゃん絵本について」でした。

さて、この「赤ちゃん」です。一般的には、二歳児頃までの乳幼児を指す言葉です。が、0歳児と二歳児では、発達の度合いに大きな差があります。そこで、本稿では、0歳児に限定して述べることにします。

《赤ちゃんは、音を食べる》

数年前、「赤ちゃん絵本研究会」なるものを立ち上げました。赤ちゃんの発達と絵本との関係を研究する編集者の会です。現在、十四社十九人のメンバーで、月一回例会を開いています。例会とは別に、年、三〜四回、葛飾赤十字産院におじゃまして、0歳児に絵本の読み語りをしています。

当初、0歳児に読み語りは成り立つのか、おっかなびっくりの状態でしたが、試行錯誤を繰り返すうちに、赤ちゃんはどんな絵本をどのように喜ぶのか、次第に見えてきま

した。

新生児の視力は、0・01くらいだそうです。20センチほど離れた母親の顔がぼんやりと分かる程度です。一般的に大人の視力までに近づくのは、学齢に達したころだといわれています。

生後六ヶ月ぐらいの赤ちゃんの場合。絵本の中の絵を見る子はたまにいますが、ほとんどは、読み手の顔を見ます。関わってくれるのがうれしいのです。八ヶ月〜十ヶ月くらいになると、絵を注視する子が出てきます。普段から絵本を通して大人との遊びに慣れ親しんでいる赤ちゃんです。

『ぼんぼんポコポコ』（長谷川義史 金の星社）は、わたしの

